

「おとつかやん」

泉 美之松

大平さんは、大蔵省への入省が三年先輩なので、私は後輩として長い間親しくしていただいた。その思い出は実にたくさんで、取捨選択に迷っぽじである。

大平さんに初めてお目にかかったのは、大平さんが蒙疆からお帰りになつて、私ども大蔵省の若い者達に、蒙疆の話をして下さつた時であった。私の知らないようなことをいろいろユーモアを込めて話していただいて、なかなかしつかりした面白い先輩だと感じた。

その後、しばらくは、私が企画院へ出向したり南京へ赴任したりなどして、大平さんにお目にかかる機会はなかつたが、戦後、大平さんが池田蔵相の秘書官をされて以来、私は、主税局や官房勤務等で、大平さんにお目にかかる機会も増えるようになり、その後亡くなられるまで大変お世話になつた。

大平さんは、一見洋洋とした風貌に似合わず大変よく気がつく親切な方であった。

例えば、大平さんが池田蔵相の秘書官や池田総理大臣の官房長官をしておられた当時、私は、池田さんからよく叱られたものであった。池田さんは、昭和十五年に私が宇都宮税務署長を拝命して以来、宇都宮税務署長の先輩として、また、税界の大先輩として師事してきたのであるが、池田さんは、私を後輩として叱り易かつたのか、本当によく叱られたものである。そうすると、大平さんは、私が池田さんの部屋から出でると、時々呼び止めで、「泉君よ、池田さんは、君を鍛えてやりでああ言つてるので、憎くて叱つてごるのではないから、くよ

くよしないで、しっかりやれよ」と、親切に励まして下さった。私は大平さんの暖かい心遣いを感じ、肝に銘じて、ありがたく思つたものであった。

また、大平さんは、後輩に対しても大変思いやりのある方であった。私ども昭和十四年入省者が入省十年とか入省二十年の余命を開じうとしているが、幹事をしておる私を呼んで、「これで、みんなで元気にやつてくれ」と、金一封を渡して下さつたものであった。それだけに、私ども大蔵省の後輩は、大平さんに「おとうひやん」の愛称を奉つたものであった。

さぬに、大平さんは、人の長所を見付けて、それを伸ばすよう、「いろいろ心遣いをされた。他人の短所をあげつらう」とは余りされなかつた。そこに、人の長となる才を持つておられたようと思われる。池田さんは、かなりずけずけとおっしゃることがあつたが、大平さんは、その点では、池田さんとは異なつていた。私は、秘書課長として人事の立案をして、人物評をせざるを得ないことがあつたが、大平さんは、秘書官として、また、池田さんの側近として、「泉君よ、人事をやるときには、その人の長所を伸ばすように心がけなければいけないよ」と、おっしゃられることがあつた。私はそのお言葉を肝に銘じて人事を行う場合の心得としたものであった。

その大平さん、私どもの「おとうひやん」が亡くなられてしまった。寂しい限りである。心から冥福をお祈りした。

(日本専売公社総裁)